

教理研究院

続・UCIを支持する人々の言説の誤り(20)

UCI(いわゆる「郭グループ」)およびFPA(家庭平和協会)を支持する櫻井正実氏は、二〇二一年六月三日、「第四アダムに対する理解」と題する動画を公開しました。彼はその動画で、「二〇二一年は第四アダム時代の第一年目」との非原理的な、摂理観、なるものを語り、動画の終わりのほうでは、「韓鶴子女史がその真の母の位置を離れ、お父様が聖和された」状況にあるとしたうえで、「今現在、この地上で真の父母に立たれている方は、顯進様と全淑様である」と断言しています。文顯進様夫妻が「今現在……真の父母に立たれている」との主張は、真のお父様のみ言や「原理」に照らし合わせると、とんでもない非原理的主張にほかなりません。これまで、すでに四回にわたって櫻井正実氏の言説の誤りを指摘しました。ところが、それでもなお櫻井正実氏は文顯進様を「第四アダム」だと言い張っており、悪質と言わざるをえません。今回も引き続き、櫻井正実氏が述べる非原理的な言説の誤りを正します。

なお、これらの問題点を総合的に理解し把握するためには、「真の父母様宣布文サイト(https://trueparents.jp/)」の掲載文や映像をごらんください。 教理研究院

注、真の父母様のみ言は「青い字」で、UCIおよびFPA側の主張は「茶色の字」で区別しています。

二十、真のお父様のみ言と異なる主張をする文顯進様は、第四アダムでも、真の父母でもない・その5

(16) FPAは顯進様の副会長就任式を「第四アダム公認式」と強弁
①み言:「顯進君も……いまだに行くべき蕩滅の道が残され

が救援摂理であり、復帰摂理の完成である、ということを考えてるとき、この三代を中心として天の公的な責任を任命するということは天宙史的な一大事です。三代までは救援摂理の蕩滅が終わっていないので、いずれにせよ、顯進君も「世界平和統一家庭連合」の世界副会長という責任を負って、いまだに行くべき蕩滅の道が残されているのです。ですから、私たちの願いは、この蕩滅の三代を過ぎて、第四次アダム圏解放の時代である地上・天上天国の到来を結論づけることです」(「ファミリー」一九九八年九月号6〜7ページ)

を中心として、これが蕩滅復帰という最後のページです。サタンの血統を断切して、きれいに清算した後に天の直系の子女が家庭を中心として第四次アダム勝利圏を引き継ぐことのできる、そのバトンを受け継ぐことのできる出発がなされたという事実が、驚くべきことであるということも、皆さんは知らなければなりません。この顯進の息子、娘たちの話です。それは、四代ではありませんか?(四代の)その家庭を通して、第四次時代に入っていくことができるというのです」(同19〜20ページ)

上天国の到来を結論づけること」と語っておられ、さらには「顯進をこのように家庭連合の副会長として立てることができた……これが蕩滅復帰という最後のページです。……第四次アダム勝利圏を引き継ぐことのできる……出発がなされたという事実が、驚くべきこと……この顯進の息子、娘たちの話です。それは、四代ではありませんか?(四代の)その家庭を通して、第四次時代に入っていくことができる」と語っておられます。すなわち、お父様が語られたみ言によれば、顯進様の立場はど

「三億六千万双が終われば、その時から蕩滅が必要でない、第四次アダム圏時代に入っていきます」(八大教材教本『天聖經』1353ページ)

真のお父様は、一九九七年七月十五日の「三六〇万双の祝福完遂勝利」の土台の上で、同年八月九日に「七・八節(天地父母天宙安息圏宣布)」を制定されました。そして同年九月十一日「第四次アダム圏時代」を宣布され「真の父母を中心とした第四次アダム圏時代は今日から始まるのです。……第四次アダム圏時代に入るとき、はじめて神様と真の父母の安息圏が訪れ、安着できる」(「主要儀式と宣布式Ⅲ」211ページ)と語られました。このみ言で分かるように、「第四次アダム圏時代」とは「蕩滅が必要でない」時代のことをいいます。また「就任式」のみ言にお

ている」 FPAは、彼らのブログ「祝福家庭コミュニティ」で「第六十二回真の子女の日」のお知らせ」と題し、次のように述べています。

「FPAでは、来たる第六十二回真の子女の日、全世界の兄妹姉妹たちと合わせ、一九九八年七月十九日の第四アダム公認式(家庭連合世界副会長就任式)でのお父様の御言を共に訓読していきたく思います」(二〇二二年十月二十七日付の記事)

彼らは二〇二一年十一月五日の「第六十二回真の子女の日」を前後し、十一月一日から二十一日までの二十一日間を「第二次精誠路程」と意義づけ、FPA会員のみ言を訓読するよう呼びかけています。

その際、顯進様の家庭連合世界副会長就任式(以下「就任式」)に対し、「第四アダム公認式」と呼んで

式」と呼んでいます。彼らは、二〇一九年十月二十六日の記事で「確かに「第四次アダム」に関して言うなら、お父様が直接、公式的な場で「第四次アダムは顯進だ」と明言されたことはない」(https://align-with-god.org/blog/archives/544)と語っていました。

事実、「就任式」のみ言のどこを読んでも、真のお父様が顯進様を「第四アダム」と公認している事実はありません。これはみ言に対するかつてな解釈にすぎず、強弁にほかなりません。お父様は「就任式」のみ言で次のように語っておられます。

「アダム家庭においては、神様が一代ならばアダムは二代であり、アダムの息子、娘は三代目になります。その三代を見ることができなかつたということが墮落です。そうして、三代の歴史を再び起こすためのもの



ても、真のお父様は、「私たちの願いは、この**蕩滅の三代を過ぎて、第四次アダム圏解放の時代**である地上・天上天国の到来を結論づけること」(『ファミリー』一九九八年九月号7ページ)と語られ、また、「**サタンの血統を断切して、きれいに清算した後**に天の直系の子女が家庭を中心として**第四次アダム勝利圏**を引き継ぐこと」ができる」と語っておられます。これらのみ言からも分かるように、「**第四次アダム勝利圏**」とは「**蕩滅の三代を過ぎて**」迎える勝利圏のことであり、かつ「**サタンの血統を断切して、きれいに清算した後**に」迎える勝利圏をいうのです。

前項で述べたように、**顕進様**の立場は、どこまでも、「**蕩滅の道が残されている**」立場であり、その意味から見ると、まだ「**第四次アダム圏時代**」「**第四次アダム勝利圏**」には至っていない立場であると結論づけざるをえません。

FPAは、**顕進様**の世界副会長の就任式を「**第四アダム公認式**」と強弁しますが、その主張はみ言に根拠がなく、み言から逸脱した主張です。**顕進様**の「就任式」は、世界副会長の就任式にすぎず、「**第四アダム公認式**」ではないということは火を見るより明らかです。

(17)「就任式」のみ言を改ざんする**櫻井正実氏**

櫻井正実氏が彼ら独自に定めた「**第二次精誠路程**」で訓読するためFPA会員に配付した資料を見ると、真のお父様のみ言映像六分四秒から六分三十二秒の「**第四次アダム**」に関する重要部分が次のようになっていきます。

「**天の直系の子女が家庭を中心として第四次アダム勝利圏がこのように繋がることができる、そのバトンを受け継ぐことのできる出発が始まるようになった**

という**事実**が驚くべきことだという**こと**を皆さんは知らなければなりません。祝福家庭が、この**顕進の息子娘が祝福四世だ。四代だ。四次アダム時代を迎えることができるというのだ**」(櫻井正実氏がFPA会員に配布した資料)

ところが、真のお父様のみ言映像を見ると、お父様は次のように語っておられます。

「**天の直系の子女が家庭を中心として第四次アダム勝利圏をこのように引き継ぐことのできる、バトンを受け継ぐことのできる出発が始まったという事実が驚くべきことだと、皆さんは知らなければなりません。祝福家庭というのは、この**顕進の息子・娘のこと**です。祝福四世。(それは)四代ではありませんか。(その家庭を通して)四次アダム時代を迎えることができるというのです」(み言映像6**

分4秒〜6分32秒をディクテーション、教理研究院による)

このみ言で、誰が「**四次アダム時代を迎えることができる**」のかについて、真のお父様は明確に「**この顕進の息子・娘のことです**」と語っておられます。ところが、**櫻井正実氏**はそれをごまかすかのように、「**この顕進の息子娘が**」という文言に変えています。これは明らかな改ざん行為です。

前項でも述べたように、**顕進様**は「**いまだに行くべき蕩滅の道が残されている**」立場です。**第四次アダム勝利圏**とは、蕩滅がない時代を言っており、それゆえ誰が「**四次アダム時代を迎えることができる**」のか、それは蕩滅の終わった**顕進様**の息子・娘のことを示しているのです。そのように、真のお父様が明確にしておられるため、**櫻井正実氏**は「これではまずい」と思ったのでしょう。この重要部

分を改ざんし、み言の真実が分からないよう変えています。結局、**顕進様**が「**第四アダム**」であるというみ言は、「就任式」のみ言には存在しないのです。

(18)「第四次アダム圏時代」を切り開かれた真の父母様

真のお父様は「**第四次アダム圏時代**」を、祝福によって切り開かれたことを次のように語っておられます。

「**三億六千万双が終われば、その時から蕩滅が必要でない第四次アダム圏時代に入っていきます**」(八大教材教本『天聖經』1353ページ)

真のお父様は一九九七年七月十五日の「**三六〇万双の祝福完遂勝利**」の基台の上で、同年八月九日に「**七・八節(天地父母宇宙安息圏宣布)**」を制定され、そして同年九月十一日に「**第四次アダム圏時代**」を宣布してお

られます。そして、「**真の父母を中心とした第四次アダム圏時代は今日から始まるのです。……第四次アダム圏時代に入る**」とき、はじめて**神様**と**真の父母の安息圏**が訪れ、**安着できる**」(『主要儀式と宣布式Ⅲ』211ページ)と語られました。

また、「**第三次アダムとして来られて第四次アダム圏時代を開いた先生**」(同212ページ)とも語られました。

このように、真の父母様が祝福の勝利圏を通して「**第四次アダム圏時代**」を切り開いていかれたのです。

一九九八年一月一日の第三十一次「**真の神の日**」で、真のお父様は次のように祈られました。

「**九八年を中心として……今や三億六千万双の祝福とともに、サタン世界の血統断切というあなたの救援摂理史の最終的な願いを解決してさしあげ……成就させ得る道に向かって前進しよう**

うと願うものです。……三十三回の「**真の神の日**」を迎えるその時には、**三億六千万双の完成**とともに、**サタンの血統を断切できる解放の地上―天上天国を迎え、第四アダム勝利と栄光を讃揚することのできる天国出現**が顕現され得るよう、祝福してください」(『ファミリー』一九九八年二月号8〜9ページ)

真のお父様は、「**九八年を中心として……三億六千万双の祝福とともに、サタン世界の血統断切**」を成就するため前進すると祈られ、年頭標語「**真の神様を絶対に誇り愛することは三億六千万双の祝福完成とサタン世界の血統断切**」を発表されました。

そして、同年二月二日、真のお父様は、「**三億六千万双が終われば、その時から蕩滅が必要でない第四次アダム圏時代に入っていきます**」と語られ、さらに同年六月十三日に「**三億六**

千万双一次国際合同祝福結婚式」を挙行されました。そうした後において、同年七月十九日に**顕進様**が副会長に就任しましたが、その就任式によって「**第四次アダム圏時代**」が始まったのでは**ありません**。

真の父母様は、「**三億六千万双一次国際合同祝福結婚式**」の勝利で「**世界全体の家庭が祝福を受けて、国を超えて世界に進むことができる祝福の環境を開拓**」したと言われています。すなわち、真の父母様がこの祝福を通して「**第四次アダム圏時代**」を切り開かれたのです。

(19)み言…「**後のアダムが第四次アダムの立場に立って**」第四次アダム圏勝利一代となられる

真のお父様は、「**第四次アダム**」とは何かについて、次のように語っておられます。

「**再臨主、次の主人として来られる方、最初のイエスは失敗したので、次に来られる方が来**

て、後のアダムが四次アダムの立場に立つて、サタン世界の結実である地獄を、地上地獄と天上地獄をきれいにしておいた後にプレゼントをあげようというのです(マルスム選集512―36)

「先生が、一代になるのです。四次アダムの勝利一代から二代、三代、四代に……すーっと下りていくのです」(同314―137)

このみ言で語っておられるように、後のアダム^①の真のお父様が「第四次アダム」の立場に立って、一九九八年に「真の神様を絶対に誇り愛することは三億六千万双の祝福完成とサタン世界の血統断切」(年頭標語)を宣布され、一九九九年に「真の祝福天宙化とサタン血統根絶」(年頭標語)を目標とされて、それを勝利することで「解放の地上―天上天国を迎え、第四次アダム圏勝利」を成されたと言わ

れます。そしてお父様は、「先生が一代になる……四次アダム圏勝利一代から二代、三代、四代に……すーっと下りていく」と語っておられます。このように、真の父母様が立てた祝福の勝利によって、同年九月十四日、真のお父様は、「自分の名前で祈禱する時代」(『主要儀式と宣布式Ⅳ』97ページ)になったことを宣言され、祈禱の結びの言葉が「真の父母の勝利圏を祝福で受け継いだ、祝福家庭○○の名でお祈りします」(同98ページ)となりました。そして同年十月二十四日に「第四次アダム圏時代到来」を満天下に宣布されたのです。

この祝福の勝利によって、真のお父様は、「地上では祝福を受けた家庭が、真の父母と縦的な関係における第四次アダムの資格をもちます。真の父母を中心とした第四次アダム圏時代」(『主要儀式と宣布式Ⅲ』211ページ)が始まり、「祝福家庭

としてこの時代に生きる人は皆、第四アダム」(同、220ページ)になると語られました。このように、お父様はみ言で、真の父母との縦的關係において「第四次アダム」「第四アダム」は祝福家庭であると、はっきり語っておられます。それゆえ、第四次アダム圏時代を切り開かれた中心存在(一代目)は、どこまでも真の父母様なのであり、祝福家庭が二代、三代、四代……とそこに続いていくのです。顯進様が特別に「第四次アダム圏」の中心(『第四次アダム』)であると真のお父様が語られた事実は一切なく、FPAの主張は、み言に根拠のない、虚偽の言説^②にほかなりません。

また、真のお父様は、一九九七年九月十一日に「第四次アダム圏時代」を宣布され、次のように語っておられます。「おじいさん、息子、孫、これが神様の一つの体です、三代。三代を

「四次アダム時代がこの四代、圏をいうのです。それが蘇生、長成を経て四次圏とびったり合います。ですので、四次アダム圏時代がそのようなアダムの孫、四代が広がることで、同じ家の中で四代が暮らすのです」(マルスム選集333―313)

真のお父様は、「四次アダム圏時代」とは「四代圏」の確立のことであり、それは「アダムの孫、四代が広がること」と語っておられます。すなわち、「神様が一代、アダムが二代、そして三代(子女様)」さらに「アダムの孫、四代」による「四代圏」の確立のことです。また、お父様は、「第四次アダム圏時代」における「家庭の完成」について、次のように語られました。

「第四次アダム圏時代において「神様を中心」に祖父母、父母、息子・娘がバランスを取る」ことで「家庭が天国に入るといのが公式」と語られました。三代圏を確立した家庭に「神様が臨在」し、「全ての愛の完成」がなされるのです。ところが、FPAが主張する「第四アダムの家庭」は、「神様を中心」に祖父母、父母、息子・娘となっており、再び神様を中心」にアダムとエバ、その子女という関係となっており、その「第四アダムの家庭」には、祖父母である、永遠の中心^③の真の父母様が存在しません。真の父母様が排除され、まるで顯進様夫妻が「第四アダムの家庭」における真の父母の立場であるかのようになっています。

真のお父様は、「第四次アダム圏時代」において「神様を中心」に祖父母、父母、息子・娘がバランスを取る」ことで「家庭が天国に入るといのが公式」と語られました。三代圏を確立した家庭に「神様が臨在」し、「全ての愛の完成」がなされるのです。ところが、FPAが主張する「第四アダムの家庭」は、「神様を中心」に祖父母、父母、息子・娘となっており、再び神様を中心」にアダムとエバ、その子女という関係となっており、その「第四アダムの家庭」には、祖父母である、永遠の中心^③の真の父母様が存在しません。真の父母様が排除され、まるで顯進様夫妻が「第四アダムの家庭」における真の父母の立場であるかのようになっています。

「第四次アダム圏時代において「神様を中心」に祖父母、父母、息子・娘がバランスを取る」ことで「家庭が天国に入るといのが公式」と語られました。三代圏を確立した家庭に「神様が臨在」し、「全ての愛の完成」がなされるのです。ところが、FPAが主張する「第四アダムの家庭」は、「神様を中心」に祖父母、父母、息子・娘となっており、再び神様を中心」にアダムとエバ、その子女という関係となっており、その「第四アダムの家庭」には、祖父母である、永遠の中心^③の真の父母様が存在しません。真の父母様が排除され、まるで顯進様夫妻が「第四アダムの家庭」における真の父母の立場であるかのようになっています。

「第四次アダム圏時代において私たちは何をすべきでしょうか？ 私たちの家庭を完成しなければなりません。……そのような家庭に神様が臨在するので、その神様を中心に祖父母、父母、息子・娘がバランスを取るので、……そのような家庭が天国に入るといのが公式」(マルスム選集338―255)

真のお父様は、「第四次アダム圏時代」における「家庭の完成は神様を中心」に祖父母、父母、息子・娘であると言っておられます。すなわち、「神様が一

代、アダムが二代、そして三代(子女様)」であり、さらに「アダムの孫、四代」による真の父母様を中心(出発点)とする三代圏の確立を言うのです。そして「第四次アダム心情圏」の時代とは、神様を一代として「四代となる孫の時代、孫・孫娘の時代」と語っておられます。真のお父様は、顯進様の副会長就任のとき「第四次アダム勝利圏を引き継ぐことのできる……出発がなされた」と述べ、それは「顯進の息子、娘たちの話です。それは、四代ではありませんか？」と語られましたが、その意味は「第四次アダム心情圏」の時代が「四代となる孫の時代」であるため、四代であるお孫様たちが「第四次アダム圏を引き継ぐことのできる」時代へ超えていく出発がなされたということを示しておられるのです。

顯進様について、真のお父様は二〇〇九年三月八日のいわゆる「東草事件」のとき、顯進様を厳しく指導され、人事措置とともに郭錠煥氏に「顯進は勉強しなければなりません。郭錠煥が『平和神経』を教えてあげなさい」(マルスム選集609―131)と指示されました。また、いわゆる「ポート会議」(二〇一〇年七月十六日)で、真のお父様は、「(顯進は)もつ、ずつと前に離れたんだよ、十年前に」「顯進は先生と同じ方向に向いていない」と、顯進様に對して厳しいみ言を語られました。このような厳しいみ言を顯進様に投げかけるお父様が、顯進様に自分の後を託されるはずもありません。

「第四次アダム圏時代において私たちは何をすべきでしょうか？ 私たちの家庭を完成しなければなりません。……そのような家庭に神様が臨在するので、その神様を中心に祖父母、父母、息子・娘がバランスを取るので、……そのような家庭が天国に入るといのが公式」(マルスム選集338―255)

真のお父様は、「第四次アダム圏時代」における「家庭の完成は神様を中心」に祖父母、父母、息子・娘であると言っておられます。すなわち、「神様が一

代、アダムが二代、そして三代(子女様)」であり、さらに「アダムの孫、四代」による真の父母様を中心(出発点)とする三代圏の確立を言うのです。そして「第四次アダム心情圏」の時代とは、神様を一代として「四代となる孫の時代、孫・孫娘の時代」と語っておられます。真のお父様は、顯進様の副会長就任のとき「第四次アダム勝利圏を引き継ぐことのできる……出発がなされた」と述べ、それは「顯進の息子、娘たちの話です。それは、四代ではありませんか？」と語られましたが、その意味は「第四次アダム心情圏」の時代が「四代となる孫の時代」であるため、四代であるお孫様たちが「第四次アダム圏を引き継ぐことのできる」時代へ超えていく出発がなされたということを示しておられるのです。

FPAの主張は、み言に根拠のない非原理的なものです。金鍾煥氏はみ言を改ざんして『統一教会の分裂』を書きましたが、櫻井正実氏も訓読用のみ言を改ざんしており、このような彼らの「虚偽」に十分に気をつけなければなりません。